

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立入野小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況調査の分析や学力検査の結果をもとに、低学年から基礎的・基本的な学力を積み上げていく。 見直した校時程や行事等の精選を通して、職員が働きやすく、児童とじっくり関わることができる環境を整備していく。 学校統合に向けて、土台となる児童間のつながりを深めるとともに、小学校間で綿密に情報交換を行いながら、準備を進めていく。
2 学校教育目標	自ら学び、仲間と協働し、地域の未来を創り出す入野っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> い いつも気持ち良く あいさつ、返事、はきものをそろえる り 理解できるまで ねばり強く 学習 の のびのび 外で遊ぶ

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者			
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた授業実践	●学力向上対策評価シートに基き、学習内容の定着に向け、共通実践ができた教師80%以上	B	・校内研修等で情報を共有し、共通実践に生かす。 ・個の学習状況を細やかに把握し、個に応じた支援や補充に力を入れる。	B	・学力向上については、夏季休業中に研修を行い、課題の把握、取組方針の再確認ができた。共通理解した内容をもとに、後期の実践に力を入れていく。	B	・学力向上対策評価シートをもとに、共通理解した内容を確認しながら、基礎的・基本的な学習内容の定着を目指し、授業改善に取り組んだ。	B	・学力向上については、児童数が増えることを考慮して、児童の実態に応じた取組が今後必要になる。	学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業やこころのひろば(人権集会)で、現状や今後振り返りができた児童80%以上	A	・こころのひろばや学級活動等全教育活動を通して、人権の大切さを伝えていく。 ・道徳の授業実践を重ね、子どもの変容を見取るために道徳ノートを活用する。	A	・こころのひろばや学級活動等、それぞれ工夫して人権・同和教育に取り組んでいる。 ・授業時間だけではなく、朝の時間を活用しながら道徳の授業実践を深めている。	A	・こころのひろばの実践は、大変有効だった。全学年で、自己肯定感を高めることができた。 ・各学年、あるいは合同で授業実践を深めていた。	A	・児童の心を育む活動は、他校の取組もよいところを取り入れながら継続してほしい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○毎月の生活アンケート後、必要に応じて面談を行い、生活協議会で情報共有、早期発見、早期対応した教師100%	A	・月末に生活アンケートを行い、早期発見のつなげ、気付き等を共有する。 ・毎月の生活指導協議会で共通理解し、組織的に対応する。	A	・生活アンケートや生活指導協議会を通じて、問題行動の早期発見や共通理解ができている。 ・問題が発生した場合、協力して素早い対応がとられており、問題の解決も円滑に行われた。	A	・生活アンケートや生活指導協議会のみならず、日ごころから情報交換し、協力して対応できた。 ・問題が発生した場合、協力して素早い対応ができており、その後の経過についても注意を払っている。	A	・職員間で連携して対応されている。統合後、職員の連携が更に必要となる。	生活指導主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒80%以上	B	・授業や生活において児童の発言や行動のよいところを認め褒める。児童のよい行いを職員で共有する機会を設ける。 ・地域の人材バンクを活用し、外部講師を招いて様々な職業について学ぶことのできる体験活動を準備していく。	B	・自己肯定感が低い児童がみられる。今後も、児童同士でお互いのよさを認め合える時間を設けていきたい。また、活動をする前に目標やめあてを明確にさせていきたい。 ・様々な職種について学ぶことのできる外部講師の招いての体験活動を今後も取り入れていきたい。	A	・生活指導協議会や特別支援教育研修などを活用し職員間での児童理解が深まったことで、職員が児童を褒める場面が増え、自己肯定感の高まりにつながった。 ・ものづくり体験や地域学習など外部講師を招いて様々な職業について学ぶ体験活動に取り組むことができた。今後も、児童が様々なことにチャレンジできるような活動を計画していきたい。	A	・低学年には、「ほめてもらえるか」という質問が伝わりやすいかもしれない。保護者にも、ほめてもらい、自己肯定感を高めるようにしていきたい。	特別活動主任
●健康・体づくり	○自分の思いを伝え、お互いを認め合うことへの育成を目指す教育活動	○「自分の思いを伝えることができるようになったと思う。」と回答した児童生徒80%以上 ○「お互いのよいところを認め合うことができるようになった。」と思う児童生徒80%以上	B	・低中高の学年で学級活動の授業研究を行い、全職員で研修を進めていく。 ・統合する3校合同交流活動を定期的に行うことで、今までの仲間だけでなくどんな友達でも、自分の思いを伝えることができるような体験学習を進める。	B	・今後、学級活動についてお互いの授業を見せ合い、研修を高めていきたい。 ・3校合同交流活動を行ったことで、他の学校の友達とも意見を交流する場面が多くなった。今後も自分の思いを伝える体験活動を進めていきたい。	A	・3校合同交流など学級や学校以外の場面で自分の思いを伝える姿が見られた。「思いを伝えられた」という実感をもたせるようにしていきたい。 ・「あいさつの木」や「こころのひろば」など、学級だけでなく全校での取り組みにより、お互いのよさを認め合える児童の育成につながった。	A	・児童集会の様子から、児童間の関係のよさが伝わってきた。他校のよい取組を取り入れながら、児童の心を育む取組を継続したい。	特別活動主任
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康・体づくりに食事は関係している」と考える児童生徒90%以上 ●朝食を摂って登校する児童90%以上	A	・年に2回の「お弁当の日」を活用して、元気に学校に登校できる健康的な体をつくるには食事をバランス良く取ることが大切であることを意識づける。 ・よい子のくらし点検の項目に「朝食」に関する項目を設けることで、朝食を食べてこようとする意識を高める。	A	・第1回「お弁当の日」を通して、食の大切さや栄養バランスを考えることができた。第2回「お弁当の日」も、さらに食について考える機会となるようにしたい。 ・「よい子のくらし点検」からほとんどの児童が朝食をとっていることが分かった。今後も継続してこの取組を続けたい	A	・第2回「お弁当の日」のふりかえりには、毎日食べる食事への感謝の言葉が記述されていた。高学年では、栄養バランスを考えたお弁当を自ら考えてつくることができた。 ・「よい子のくらし点検」に朝食に関する項目をあげたことで、朝食を食べることへの意識が高まった。	A	・「お弁当の日」は、調理だけでなく、感謝の気持ちをもつ、という点でもよい取組である。統合後も継続できるとよい。	保健主事 食育推進担当者
	○健康に気を付けて外で体を動かすことを楽しむ児童の育成。	○熱中症対策などに留意して、縦割り活動やマラソントライムなどを組み、休み時間等に外や体育館で体を動かした児童70%以上	B	・放送・体育委員会など、児童による呼びかけも行い、天気の良い日は外で過ごす学校全体の雰囲気醸成していく。 ・夏場は、細やかな水分補給などを呼びかけ、熱中症対策をとりながら安全に外遊びをするように促す。	B	・天気の良い日は、外で元気よく遊んでいる子どもが多い。夏期は、WBGTの値を踏まえた上で、水分補給を促しながら外遊びをすることができた。 ・統合後も、子どもたちが元気に外遊びができるよう、運動場の使い方を考え、環境を整えていく。	A	・天気の良い日は、外で元気よく遊んでいる子どもが多い。外で元気よく遊ぶことで、寒い冬を乗り越えようと思う児童もいる。今後も、外遊びを推奨していく。 ・3学期から、統合後を見据えた運動場の使い方を提案し、子どもたちは安全に外遊びをしている。	A	・児童数が増えて、体を動かす楽しさも増えると思われるが、運動場の使い方も、安全面への配慮も必要となる。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・定時退勤日、定時退勤推進日をもとに目標時間を共有し業務に取り組む。 ・業務効率化につながるアイデアを出し合い、実践する。	B	・定時退勤日については、定着してきたが、定時退勤推進日についても、取組を進めていく。 ・会議の精選等で放課後の時間が昨年度より確保できている。	A	・定時退勤日、定時退勤推進日については、かなり意識できるようになった。 ・放課後の時間を確保したことで、職員の時間外勤務時間も縮小できた。	A	・統合で慌ただしくなると思われるが、健康に留意して、業務にあたってほしい。	管理職
	○チームワークによる計画的な業務推進	○チームワークを意識して、業務に取り組めた職員の割合80%以上	A	・行事等への取組後の振り返りを重視し、改善点を明確にする。 ・各部署内で連携して、提案内容を検討し業務の効率化を進める。	A	・各部署で活発に話し合いを行い、統合を見据えた行事等の提案、実践を行っている。	A	・各部署での話し合いを充実させ、統合後の次年度の計画作成にもつなげることができた。	A	・職員間のコミュニケーションを今後も継続して、業務にあたってほしい。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者			
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言		
○基本的な生活習慣の定着	○気持ちのよい学校生活を送るため	○「あいさつ、返事、はきものをそろえる」を日々心がけている児童90%以上	A	・各学年の実態に応じて、重点を決めて取り組む。 ・全校朝会や集団下校時に、取組状況について振り返りをさせる。	A	・毎月の生活目標や「よい子のくらし100点運動」を通して、あいさつ、返事、はきものそろえへの意識が高まり、自主的に取り組む姿が多く見られるようになった。	A	・「あいさつ・返事・はきものそろえ」の合言葉をもとに、児童自ら気持ちのよい学校生活を送ろうとしている。統合後も児童主体で取組を継続していきたい。	A	・あいさつが気持ちよくできていてよい。今後も継続してほしい。	生活指導主任
○学校統合に向けた小小連携・小中連携	○学校統合に向けた交流授業の充実	○他校と交流授業の計画・実施に協力して取り組んだ教師90%以上	A	・他校と協力して交流授業の準備をし、1学期、2学期にそれぞれ1回以上の交流授業を実施する。	A	・交流授業の実践に向け、他校と密に連絡をとりながら準備を勧め、交流授業でのびのびと活動する児童の姿が見られた。	A	・計画にそって交流授業を実施したことで、小小の交流が活発になり、統合後の準備につながることができた。	A	・各小学校の児童が統合を楽しみにしていることがよい。	教務主任

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 統合による児童数の増加を機会として、学力向上に関わる手立てを見直すとともに、学校・家庭・地域の連携を強め、児童の学びを支える環境づくりに注力する。 「お弁当の日」、「ありがとうの木」など本校で大切にしていた取組を継続するとともに、他校のよい取組を取り入れて、児童の心身を育てていく。 統合して生じるであろう様々な課題に、職員が連携して解決に向けた具体的な取組を進めていく。
----------------	--

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育